Why not Mac?

vol.11

Apple at Workに見るAppleの本気度

“ Appleのセキュリティに対する取り組みは「Secure by design」 ”

加速するMac企業導入を支えるAppleのテクノロジー

2019年末に、US版のAppleのビジネス向けWebサイト「Apple at Work」が更新され、新たに「IT」のカテゴリが追加された。その日本語版も2020年にリリースされている。

新たに登場したITのカテゴリは何を意味しているのか？それは、Appleがエンタープライズ企業やビジネス利用に対して、企業ニーズを汲み取りつつ、新たなテクノロジーを提供し続けていることを表している。冒頭のメッセージは、「どんな規模の組織でもAppleデバイスをシンプルに導入、管理することができる」ということである。ITのページでは、デバイスのライフサイクルに関わる全てのタスクを効率的に対応していくためのテクノロジーが紹介されているのだ。

まず最初に「統合と設定」ではApple Business Manager（ABM）の果たす役割が示されている。購入したMacの電源を入れて、ネットワークに接続すると、自動的にMDMと接続し、必要な設定やアプリケーションがインストールされるゼロタッチデプロイメントもその一つである。ABMとは、Appleが提供する法人向けのAppleデバイスの導入のためのWebポータルである。昨年末にApple Deployment Programs（Device Enrollment Program:DEP/Volume Purchase Program:VPP）のサービスが終了し、ABMに完全移行された。この数ヶ月の間にも、このABMに関する問い合わせが急増している。具体的な問い合わせの内容は、ABMで「どんな管理ができるようになるのか？」「Apple IDを管理ができるのか？」「そもそもABMの登録方法が知りたい」と言ったものが多い。

これは、ABM自体の機能が果たす役割がWebサイトだけではわかりにくいところもあるが、ABM単体では何も機能しないというところも大きな理由の一つであると思う。ABMを活用するためにはMDM（モバイルデバイス管理）ソリューションが必要だ。MDMは、Appleデバイスをワイヤレスで構成し、リモート管理を実現するものである。このMDMとABMを組み合わせることで、より効率的な導入や高度な管理を実現できる。

今や、Appleデバイスの法人導入において、ABMが必要不可欠なものになったことは間違いない。MDMの選定やどんな管理ができるのかの検証を進める以前に、企業ではMacやiOSデバイスを調達する上で、ABMにデバイス登録を済ませておくことが大前提になってくる。特に会社所有のMacを社員に配付する上で、キッティングと呼ばれる初期設定のプロセスを、どれだけ効率的にスピーディにできるかは、社員の満足度にも影響するところだ。ゼロタッチデプロイメントにより、Macをすぐに使い始めることができ、業務やプロジェクトを開始できることは、従業員体験の向上にもつながる。

「導入とプロビジョニング」や「構成管理」といったABMとMDMより実現されることだけでなく、Mac企業導入で長年の課題になっていた「ID管理」についても紹介されている。

これまで、企業内におけるMacは社内ネットワークから切り離されていて、独自の運用管理が行われているか、既存のWindows PCと同じユーザアカウントを使うため、MicrosoftのActive Directoryと統合するような手法が取られてきた。しかし、Appleデバイスのモバイル化が進み、クラウド利用が前提になってくると、社内ネットワークの中だけで管理することが困難になり、社内のMacもMDMの管理フレームワークで導入、運用管理していくことがデファクトになった。ただ、MDMはあくまでデバイス管理の仕組みであり、Macのユーザアカウントまでを柔軟に管理できるものではない。

この問題に対して、Appleデバイスが、クラウドベースの ID管理（IDaaS:アイダース）の製品と統合できるようになったことは朗報である。様々なクラウドサービスを利用して、 Webアプリケーションやサービスを利用しながら、ビジネス活動を行っている昨今、ログインするためのIDとパスワードに溢れて、その管理も煩雑になっているところが多い。IDaaSにより、一つのIDを元に様々なサービスへのログインを統合し、シングルサインオンの環境を構築することは、これからの働き方やモバイルワークにおいても、必ず押さえておきたいところだ。

また、昨今のテレワークの環境整備が迫られている企業にとっては、Appleデバイスのセキュリティについても気になるところである。 Appleのセキュリティに対する取り組みはこの一言に集約されている。「Secure by design」。これは、Appleプラットフォームのセキュリティのリソースの冒頭にある言葉だが、ハードウェアとソフトウェアの両方を一つのメーカーが開発していることから実現できている設計思想だ。単に機能性やユーザの使い勝手だけでなく、ユーザと企業データを守るために、設計段階からセキュリティを考えているということが、Appleデバイスが世界中の企業で採用されているということにつながっている。

Apple at Workに新たにできた「IT」のカテゴリが伝えていることは、Appleデバイスの企業導入の障壁はどんどん下がってきている、ということではないだろうか。エンタープライズ企業のニーズをどんどん取り入れて、Appleがエンタープライズ企業への進出の本気度が伝わってくる1ページである。